

◇旗振支部だより

●旗振山と旗振茶屋

旗振支部 奥 武志

旗振山の住所は神戸市垂水区下畑町字西沙山301-39。この山の由来は様々な文献を見ると、17世紀末・江戸中期元禄時代から電信が普及される大正初期まで、畳一枚大の旗を振って山から山へ伝達し、遠方まで情報を伝える通信手段の山として「旗振山」と呼ばれるようになった。

つまり旗振山は、天保山～尼崎～西宮～六甲を經由した大阪堂島の米相場の情報を、明石～加古川～姫路～岡山へ伝達する中継箇所だった。現在に於いても本四公団の無線中継箇所として大きなアンテナが有り通信拠点の役目を果たしている。

その横に隣接して建っているのが創業昭和6年3月の旗振茶店である。



風光明媚な旗振山に建つ「旗振茶屋」全景

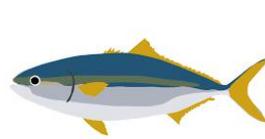
平成7年1月に発生した阪神淡路大震災で一度倒壊したが、先代父上の跡を継いで、2代目オーナーである森本孝弘氏が、山麓住民や数多くの登山者の声を汲み取り、その熱意を持って平成9年5月に再建された。同時に毎日登山の署名所も新しく設けられ、現在では活力ある「神戸ヒヨコ登山会・旗振支部」の拠点となっている。

森本オーナーと私の出会いは、私が59歳の時だから、早いもので、もう15年前になりま

す。

253メートルの山の上で、まったく自然の形の中で不思議な縁が生まれ、今では誰にも切り離せない、お互いがパートナー的な感覚で茶店の運営を果たしているような気がしています。

六甲山系の他の茶店と少し異なるのは年に4回、大きなイベントを企画し、天候に関係なく確実に開催実施されることです。毎年1月は新年会で神戸中央市場から30kgの寒ブリを担ぎ上げての料理。4月は花見の会。



1月/寒ブリ料理の新年会



4月/花見の宴



8月/BBQで盛り上がり！



12月/鍋料理で忘年会！

8月は夏の集い。焼肉BBQで大いに盛り上がり、12月は鍋料理&BBQで1年を締め括ります。すべて会費制で、山とは関係なく誰でも参加出来るというのが魅力となって参加者から喜ばれています。毎回の企画に対して参加人数は70名～100名ぐらいで、活気ある会合として年々人気が高まっています。

もう一つ面白いのは、常連のお客さん仲間15名～30名が集まって企画する「有志の会」という集いがあります。昨年開催された企画内容は、2月：牡蠣を楽しむ会、6月：ワインを楽しむ会、10月：秋を楽しむ会（秋刀魚・マツタケ）、12月：シャンパンタワーの会等々がメンバーで実施され大いに盛り上がりました。

こうして全国数々ある茶店の中で、旗振茶屋は、六甲全山縦走路・最西端の店として特徴作りに努力を継続しています。これも森本オーナーの人柄と言うか、信念の一つとしている「来

る者は拒まず、去る者は追わず」の表れからだ
と思います。

神戸ヒヨコ登山会・吉野会長も森本オーナーと
は気が通い合う仲です。数多くの山行や山案内、
そして、会議等で疲労が蓄積されて来ると、旗
振に足を運び気分を癒しに登って来られます。
店内には会長自らの手で大きく書かれた「大海
は芥を扱はず」の言葉が壁面に貼られ、人間の
縁の深さが伝わってくるのを強く感じます。

とに角、他ではあまり見られない、開放的でユ
ニークで独特な雰囲気が漂う山であり、旗振茶
屋です。機会が有れば週末に是非お立ち寄り下
さい。

.....

●新品草刈り機がデビュー！！

旗振支部 松田 提子 写真：勝田 徹

「六甲縦走」起点一塩屋からの第1ピークであ
る旗振山。その旗振山の雑草を刈る為、令和2
年8月吉日、ヒヨコ旗振支部有志で購入した草
刈り機がデビューしました。



ベテラン草刈りマン

塩屋から旗振山、そして高倉台まで尾根道を歩
く人は多いので、雑草や枯れ木の倒木などを取
り除き、歩きやすい道に皆んなで整備します。



.....

●旗振山の明歌が完成！！

旗振支部 吉田紀一

海 峡 湊

- (一) 朝もや浮かぶ垂水の浜辺
霞に浮かぶ淡路島
きらり一筋灯台あかり
高く空飛ぶ鳥達も
我も我もと後を追う
空にひとはけ茜雲
波もゆうゆう子守歌
ここは瀬戸内海峡湊
- (二) 出船入舟賑やかに
沖を通るは三本マスト
船足速め遠ざかる
浜辺で見送る人達の
頬にほんのり磯の香が
波もゆうゆう子守歌
ここは瀬戸内海峡湊
- (三) 夕もや揺れる垂水の浜辺
海大橋あかりがついて
波間に浮かぶ漁火二つ

漁をする船帰る船
海の男の素晴らしさ
舳先に一竿大漁旗が
汽笛も波間に遠ざかる
ここは瀬戸内海峡湊

